

第 16 回 日本外来小児科学会 予防接種委員会 議事録

2014 年 9 月 23 日 (火) 12:00-15:00

於：ホテル新大阪 東ロステーションビル

出席 (12 名)：岡藤隆夫、落合 仁、武内 一、田原卓浩、中村 豊、牟田広実、  
宮田章子、横田俊一郎、渡辺 博、藤岡雅司、永井崇雄  
オブザーバー参加：太田文夫  
欠席 (3 名)：寺田喜平、宮崎千明、吉川哲史

[報告事項]

1. 宮田章子委員：日本小児科学会常任理事就任
2. 第 24 回年次集会 (大阪) 会長報告 (藤岡)  
ワクチン関連では、ランチョンセミナー、WS も含めコメディカル向けのみ
3. 会員の予防接種の意識調査、実態調査について (牟田)  
外来小児科誌に掲載。第 118 回日本小児科学会 (大阪) にて報告予定。
4. 水痘ワクチンの有効性調査について (中村)  
ワクチン有効率は 44.6%。再感染率は約 60%減少。重症度については不明。
5. 学童期からの予防接種教育の教材づくりについて (落合、武内)  
第 24 回年次集会での WS の報告 (太田)  
WS31-7「小学生・中学生に予防接種を知ってもらおう!!」の資料提示。  
将来の保護者になる子どもたちへの予防接種教育の現状を検証した結果、十分にはな  
されていないとの課題を共有できた。その上で、小学生・中学生に予防接種の必要性  
を知らせるのにどのような方法があるか検討した。予防接種に関する副読本作成を目  
指して、次年度も WS を継続する予定。
6. ムンプスワクチンの年齢別の髄膜炎発症リスクについて (永井)  
症例対照研究は研究デザインに問題があり断念した。  
10 年前に実施した髄膜炎発症のコホート研究の生データを再集計した。その結果から  
年齢別髄膜炎発症リスクを牟田委員と検証した。  
接種時年齢が 2 歳未満と 2 歳以上では発症リスクに有意差が出ないが、3 歳未満と 3  
歳以上に分けると有意になった。「ムンプスワクチンを 3 歳未満で接種すれば、3 歳  
以上より髄膜炎の発症リスクが 77%有意に減少する」という結論を導き出せた。
7. 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会等の最近の動向について

HPV ワクチン積極的勧奨中止（関係組織から勧奨再開の要望書提出の動きあり）  
定期接種が見送られたワクチン（B 型肝炎ワクチンは費用対効果、ムンプスワクチンは副反応頻度で再検討中）

PCV13 導入後の変化（血清型のサーベイランスが重要）

水痘定期接種特例措置の解釈の件（横浜市：定期接種として、浜松市・富田林市など：行政措置接種として、過去の自費接種を定期接種として数えることが問題、任意接種の接種控えを助長する）

8. 日本小児科学会の最近の対応（宮田）  
新しい予防接種スケジュールの公表（水痘定期化、B 型肝炎母子感染予防の追加）  
HPV ワクチンの積極的勧奨を再開する方向で動いている
9. 日本小児科医会、日本医師会など（横田）  
水痘定期接種の特例措置解釈について、神奈川県医師会が県に対して要望書提出  
日本小児科医会は定期接種委託料金の算定方法について検討中
10. 予防接種システム検討会について（藤岡）  
昨年同様、地方の外来小児科学研究会との併催を検討中

#### [協議事項]

1. 学童期からの予防接種教育の教材作りについて、今後の進め方  
海外では子供向け教材はない。子どもたちに予防接種の重要性を伝える手段は多様であるが、学校教育の場で使える副読本の作成を目標に、年次集会 WS を通じた活動を継続する。
2. ムンプスワクチンの副反応としての髄膜炎の年齢別発症率、今後の進め方  
中山哲夫先生にムンプス自然罹患例の髄膜炎発症のデータを提供していただく。  
ワクチン後髄膜炎発症リスクの調査は、三重、静岡、兵庫やNPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会などでも、実施又は予定されている。
3. その他  
定期接種委託料金の算定方法への対応（外来小児科学会から小児科学会への要望書を検討）
4. 次回の委員会開催予定  
1月から2月の開催を目途にメーリングリストで調整予定。